

困窮者 早期発見取り組み

生活困窮者の早期発見と支援に取り組む越前市とJA越前たけふなどが、生活支援を求める家庭に届ける余剰米（玄米）の寄付を募っている。支援を求める市内の家庭は増えており、関係者は市外の農家などにも協力を呼びかけている。

市はJAや市社会福祉協議会、武生郵便局、市赤十字奉仕団と協力し、2018年から支援活動「越前市わかちあいプロジェクト（PJ）」に取り組んでいる。困窮が深刻化する前に困りごとを抱えた人を見つけ、行政などによる支援につなげる狙いで、米の配布は支援へ導くきっかけづくりの役目がある。

越前市やJA 玄米寄付募る

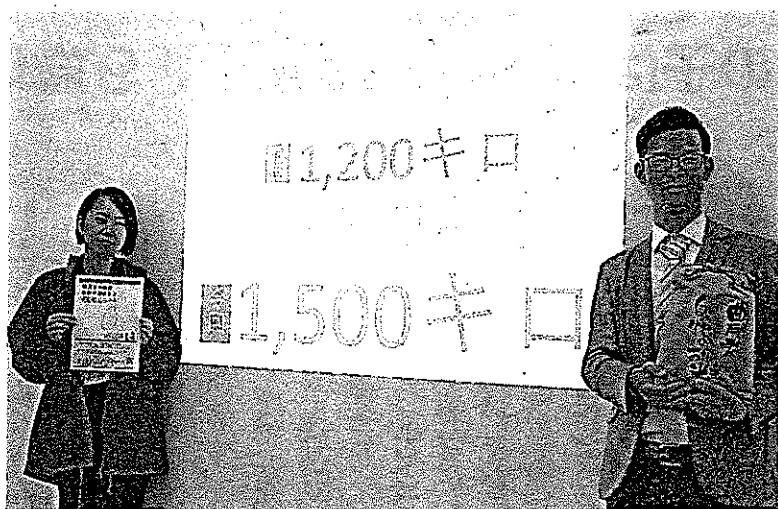
米は、公共料金などの滞納者に送付する督促状にチラシを同封し、申し込みがあった家庭1世帯に対し無料で月5kgを3カ月間（最長6カ月間）届ける。並行して、社協の相談員が家庭を訪問して相談に応じ、他の機関と協力しながら就労などの支援につなげる。

市によると、取り組みを始めた18年10月から今年9月末までに、延べ83世帯198人が米を受け取った。失業中に支援を受け、新たな仕事に就いた人もいるという。市社協相談支援員の波谷早絵子さんは「お米が様々な支援のきっかけになる。余剰米で助かる家庭があることを知ってほしい」と話している。

社協に寄せられる相談の増加などを受け、今年は確保する余剰米の量を1200kgから1500kgに増やす。受け付けるのは19年産の玄米で、JAが保管し、赤十字奉仕団が精米や仕分けなどをする。郵便局が家庭への配達などを担当する。

寄付の受け入れは、JA越前たけふ東部支店（越前市塚町）へ持参できる人に限り、事前にJA越前たけふ営農販売課（0778・21・2609）に連絡すること。PJの問い合わせは市社会福祉課（0778・22・1020）。

生活支援へ 導く余剰米



余剰米（玄米）の提供を呼びかける「越前市わかちあいプロジェクト」のメンバー＝越前市府中1丁目